

全国草原再生ネットワーク

草原がつなぐ人・自然・文化

ニューズレター

vol. 19

(Jul., 2014)

<発行> 全国草原再生ネットワーク
<http://sogen-net.jp/>



エクスカーションで訪れた砥峰高原 映画の撮影地としても知られる

■第10回全国草原サミット・シンポジウムについて

(第10回全国草原サミット・シンポジウム実行委員会事務局)

守りつなごう草原の恵み！おとなも子どもも！
第10回全国草原サミット・シンポジウム in 阿蘇
 阿蘇くじゅう国立公園指定80周年記念・阿蘇世界農業遺産1周年記念



このたび開催させていただくことになりました「第10回全国草原サミット・シンポジウム in 阿蘇」(平成26年11月22日～24日)ですが、1995年に大分県久住(竹田市)で第1回が開催されて、今回はちょうど10回目の記念大会を阿蘇で開催できることとなりました。全国各地と地元阿蘇の元気がでる取り組みや事例をたくさん発表しようと事務局では張り切っております。全国各地の皆様のご参加を心よりお待ちしております。企画内容は8月下旬に確定します。

<開催目的>

今回の「第10回全国草原サミット・シンポジウム」は草原の持つ公益的な役割や価値について広く国民にアピールするとともに、全国各地で取り組まれている草原保全活動の現状と課題について議論を深めながら、草原保全に取り組む全国の自治体や草原保全の担い手、NPO法人等との共通認識を醸成し、今後の活動に向けて連携と交流を図ることを目的に開催いたします。

<開催地域について>

今回の開催地である阿蘇地域は世界最大級のカルデラや日本一の規模を誇る草原がありカルデラ内外を含め約7万人の人々が、自然と共存し生活を営んでおります。この地域には、約2万2千ヘクタールの草原があります。草原は、採草、放牧、野焼きに

よって維持されております。しかし、農畜産業の低迷、高齢化、過疎などの進行により草原の維持が厳しくなっております。現在、野焼きを行っている草原は約1万6千ヘクタールとなっております。草原を維持・再生していくため、様々な議論や取り組みがなされております。

<これまでの経過>

- 4月8日 第10回全国草原サミット・シンポジウム実行委員会設立総会
- 5月7日 同実行委員会 第1回幹事会
- 5月23日 同実行委員会 第1回拡大事務局会議
- 7月8日 同実行委員会 第2回拡大事務局会議
- 7月23日 同実行委員会 第2回幹事会開催予定



実行委員会設立総会の様子

●予定しているプログラム

- ・ オプショナルツアー 11月22日(土)
野焼き再開地区または、輪地切り(防火帯づくり)の現地視察を予定しています
- ・ 全国草原シンポジウム 11月23日(日)
 - ①開会式
 - ②基調講演
 - ③各地からの事例報告(先進事例を予定)
 - ・ 阿蘇中央高校の取り組み
 - ・ 農業遺産である静岡茶草場草原の事例
 - ・ 秋吉台での取り組み など
 - ④テーマごとの分科会(5つの分科会を予定)
(子どもサミット、草原の公益的機能と経済的価値、野焼きの安全性について など)
 - ⑤全体討論会
 - ⑥交流会

- ・ 全国草原サミット 11月24日(日)
草原を有する全国の自治体の首長によるサミットの開催。一般の方にも公開を予定しています。

●その他の催し

- ・ 阿蘇と全国各地からの参加者による交流会
 - ・ 交流会にてのイベント・行事など
(神楽、音楽会など予定中)
 - ・ 各地の草原に関するパネル展示など
 - ・ 阿蘇くじゅう国立公園指定80周年および阿蘇世界農業遺産1周年記念を紹介するパネル展示
- など



池の窪での輪地切りの様子



阿蘇の牧野でみられる草小積



阿蘇中央高校の生徒が作った草泊まり

<今後の予定について>

詳細については、実行委員会を開催し、追ってご案内させていただく予定です。参加申し込みに関しては、8月中旬ころから予定しております。

●お問い合わせ先 第10回全国草原サミット・シンポジウム実行委員会 事務局

<サミット関係>

〒869-2612 熊本県阿蘇市一の宮町宮地 2402
阿蘇市町村会(熊本県阿蘇総合庁舎)
TEL 0967-22-3805 FAX 0967-22-0046
E-mail chouson2@aso.ne.jp

<シンポジウム・その他>

〒869-2237 熊本県阿蘇市石 1537-1
(公財)阿蘇グリーンストック内(山内・清野)
TEL 0967-35-1110 FAX 09*67-35-1151
E-mail green-b@aso.ne.jp

■第8回総会およびエクスカージョンの報告

第8回総会の報告

(ネットワーク事務局)

6月28日(土)、兵庫県姫路市、姫路商工会議所403号室にて草原再生ネットワーク第8回総会を開催しました。本人出席10人(内オブザーバー1人)を得ましたが、出席者がすべて理事ということで、急きょ理事会と総会を合同で行う提案がなされ、論議を深めることになりました。

昨年より、理事、事務局共に1名ずつ増員されたことによって、事業の進捗状況が格段に改善された印象を持ちました。昨年205の草原が登録された草原データベースの設計の見直しを図って、文字の情報だけではなく、その草原を拠点に活動しているキーマンとつながること。第10回全国草原サミット・シンポジウム in 阿蘇では環境省と共にアンケートをとる、草原人材ネットワークの構築につながり、ひいては、会の発展に寄与する盛り沢山の提案がなされました。また、情報についても議論が活発になされ、今までホームページ管理としていた事業を、WEB 広報管理運営事業と改名することになりました。今や、情報入手、発信方法にはホームページだけでなく、メールやフェイスブックなどが加わり、それぞれの利点を知り使い分けることや、それらの相乗的な利用をしていかねなければならないという理由からです。例えば、ホームページの記事が更新されたら、記事がメールで来るようにするという具合です。このような管理運営がなされると、会員の特典が多くなり、会員増強につながると思います。

シンポジウム・サミット開催支援事業については、



総会の様子

その開催地を支援という今までの定義だけではなく、ネットワークの広報の場とするべきという声が上がりました。そこで、新たに事業の概要に、「ネットワーク本体の会員増強と草原の活用を図り、会にとっての広報の場と会員増強の場にする」という文言を明記することになりました。さしあたって、第10回全国草原サミット・シンポジウム in 阿蘇の開催ではネットワークのブースを作り、ポスターセッションを行う、作成予定の全国版ヒヤリ・ハットなどの書籍を販売するなど、具体的な企画も出されました。また、第10回全国草原サミット・シンポジウム in 阿蘇の大会を第1回から第10回まで開催してきた全国草原サミットの総括とすることや、全国共通の関心事である「火入れの安全確保と対策の共有」を盛り込み、「全国草原100選の選定や草原の

経済価値の評価」へ結びつけるアクションの場と定義することなど、熱心な話し合いがなされ、全ての議案を全員一致で承認し、閉会しました。

※総会の詳細は、後日送付する予定の議事録もご覧下さい。



役員会・総会出席者の集合写真

エクスカージョンの報告

(横田潤一郎：東京都在住)

続く6月29日(日)には、兵庫県神崎郡神河町にある砥峰(とのみね)高原でエクスカージョンを開催しました。砥峰高原は、総会会場となった姫路市から車で約1時間、兵庫県のだいたい真ん中あたりにあり、標高は800m～900mに位置する面積約90haの草原です。エクスカージョンでは、兵庫県立人と自然の博物館の学芸員である橋本佳延さんにご案内いただきました。橋本さんは、砥峰高原の草原性植物について研究されており、砥峰高原が抱える問題について詳しくお話していただきました。また当地では、とのみね自然交流館職員の山野さんに高原の利用や維持管理の現状についてお話を伺うことができました。

砥峰高原の由来を紐解いていくと、たたら製鉄というキーワードが出てきます。中世の時代にかけて中国山地では、たたら製鉄が盛んに行われていました。たたら製鉄は環境面で非常に大きなインパクトを与える工業であり、砂鉄を採取するために山が1つ無くなってしまいうこともありました。砥峰高原でも非常に大きな地形改変が行われたようであり、緩やかなすり鉢状の地形の中には、採取されずに残されたと思われる残丘などの遺構が見られました。そして近世においては、このたたら製鉄の跡地が、神河町川上集落の“茅場”として利用されます。しかしながら、その後は他の地域の草原と同様に草資源が利用されなくなっていくと共に、砥峰高原の茅場



自然交流館からみた砥峰高原



交流館に展示されていた「ほぜく棒」(火消し棒)



説明を聞く参加者



エクスカージョンの様子

も利用されなくなっていました。一方で草原の維持管理は、雪解け後に行う茅場の野焼きが今も続けられています。戦時中は人手不足から一時的に途絶えたそうですが、集落に縁のある人達が集まり、今も地元の方たちだけで実施されているそうです。

そんな砥峰高原の課題はシカによる食害です。兵庫県は国内でもシカの頭数密度がトップクラスの県

ですが、草原でもその影響は凄まじいようで、今回エクサカーションで散策したわずかな時間の中でも、花芽が食べられてしまったアザミやスズサイコが沢山みられました。今、橋本さんの研究室では草原の一部にシカ柵を設置し、その影響の程度について調べられています。橋本さんは草原内の花が減ることで、吸蜜に訪れる蝶などの昆虫にも大きな影響があるのではと、懸念されていました。当ネットワークが把握している全国の草原でも、シカによる食害が報告され始めていますが、今後同様の影響が及ぶことが心配されます。

ところで、今日、砥峰高原の名が全国区になったのは、なんとといっても「ノルウェイの森」のロケ地となったことでしょう。「ノルウェイの森」撮影後も神河町では積極的に映画やドラマの誘致を行っており、大河ドラマの「平清盛」、そして今放映中の「軍師官兵衛」のロケ地にも選ばれました。ロケ地としても大きく宣伝している草原ですので、今では観光客も多く、茅場の野焼き時には3,000人、またススキの穂が輝く秋には毎日大勢の観光客が訪れるとのこと。

砥峰高原はロケ地という新たな魅力のもと、多くのお客さんをお呼びすることに成功した全国でもユニークな草原の1つです。その結果、オーバーユースなど、新たな問題も発生しているようですが、その取組と成果は、維持管理の担い手に悩む全国の草原にとって、大きな励みとなるのではないのでしょうか。

最後になりましたが、ご案内頂いた橋本さん、山野さんにはお忙しい中、多くのお時間を頂きました。この場をかりてお礼申し上げます。



シカの食害を受けたノアザミ
花の周辺のみが食べられている



シカの食害を受けたツリガネニンジン



舞台になった映画などのタイトルが並ぶ



草原内にも平清盛の撮影場所の表示がある

■全国草原リレー（第8回）

ネットワークの会員を中心に、持ち回りで、各地の草原を紹介するのが「草原リレー」です。第8回は、理事でもある塩坂氏に、伊豆の細野高原について

紹介して頂きます。今回の執筆者が、次回の執筆者へと原稿をリレーしていきます。

■細野高原の現状報告■

細野高原は伊豆半島天城連山の南側に広がる、火山泥流上に発達する、標高 400m～1,200mの高原で面積は約 40km²に達する。

江戸時代から、海岸沿いの広葉樹は炭として江戸に運ばれ跡地は広大な草原として利用され、茅の供給地となっていた。

近代に入り、別荘地・ゴルフ場・レジャー施設等観光施設ができたが 30 km²は草原として残り、毎年 2月に山焼きが行われる。山焼きの方法は地形が火山の片斜面であるため、周辺に防火帯を設けて山頂から火入れを行い、3分の1ほど燃

(塩坂邦雄：ネットワーク理事・工学博士)

えたところで、斜面の下側から火入れをおこない、ちょうど中腹で酸欠状況を作り出して消火する。

数年前に草原シンポジウムを開催してから、行政・住民も草原の資源の価値を評価し、町で数千万円投資して 100 台の駐車場、水洗トイレ、アクセス道路の整備を行った。

春～夏 山菜取り

秋 ススキ祭り

冬 山焼き

年間を通じてパラグライダー、自然観察会が開かれる。

入山料は、500 円で、去年は 2 万の入場者があり、稲取温泉の宿泊者も増加している。問題点としては稜線沿いに東京電力の風力発電施設が工事中で、道路もとなり町の河津町を通るため影響は少ないが、景観上かなりの影響が予測される、草原が猛禽類の狩場になっていることも考えると生態系にどのような影響が出るか心配している。



細野高原の遠景



上空を舞うパラグライダー



パラグライダーで上空より

■草原をめぐる動き（2014年7月～10月）

- 7/5, 9/20, 10/4 草地生態系保全講座（全5回）（場所：高槻市・鶴殿のヨシ原他、連絡先：公益社団法人大阪自然環境保全協会 草地生態系保全講座係）
- 7/6 草原の復元作業1（場所：秋吉台長者ヶ森横（山口県美祢市）、連絡先：秋吉台エコ・ミュージアム）
- 7/12 「茅葺き×デザイン」ー草のリズムで暮らしていく。あしたらしい茅葺きー（場所：こうべまちづくり会館（神戸市中央区）、連絡先：神戸市すまいの安心支援センター）
- 7/20 秋吉台お花畑プロジェクト 1～美しい秋吉台を守ろう！（場所：秋吉台青少年自然の家（山口県美祢市）、連絡先：秋吉台エコ・ミュージアム）
- 7/26-27 ススキ草原（茅場）の侵入木除伐と防火帯刈り（場所：群馬県みなかみ町上ノ原、連絡先：森林塾青水）
- 8/3 マルハナバチ調べ隊（盛夏編）（場所：乙女高原（山梨県山梨市牧丘町）、連絡先：乙女高原ファンクラブ）

- 8/3 亀成川生きもの観察会（場所：亀成川（千葉県印西市）、連絡先：亀成川を愛する会）
- 9/6 ススキ刈り取り実験その2（場所：乙女高原、連絡先：乙女高原ファンクラブ）
- 9/7 マルハナバチ調べ隊（初秋編）（場所：乙女高原（山梨県山梨市牧丘町）、連絡先：乙女高原ファンクラブ）
- 9/13 砥峰高原観月会（場所：砥峰高原（兵庫県神河町）、連絡先：兵庫県神河町）
- 9/28 草原の復元作業 2～セイタカアワダチソウ駆除作業～（場所：秋吉台長者ヶ森横（山口県美祢市）、連絡先：秋吉台エコ・ミュージアム）
- 10/11 秋吉台お花畑プロジェクト 2（場所：秋吉台青少年自然の家（山口県美祢市）、連絡先：秋吉台エコ・ミュージアム）

※上記以外の情報もホームページで随時公開しています。



秋吉台（山口県美祢市）



上ノ原（群馬県みなかみ町）

全国草原再生ネットワーク ニュースレター vol.19 2014年7月号

全国草原再生ネットワーク事務局

〒694-0064 島根県大田市大田町大田イ 376-1

NPO 法人緑と水の連絡会議内 Tel. 0854-82-2727 Fax. 0854-84-0262

【編集後記】前日の役員会・総会に出席してきました。2日目のエクスカージョンでは、初めて砥峰高原を訪れることができました。草原全体が見渡せ、多くの人々がその風景を目当てに訪れている気持ちがよく分かりました。また、第10回の全国草原サミット・シンポジウムは、分科会のテーマが絞られるなど、徐々に準備が進んでいるようです。8月中旬には、参加申込を兼ねた案内が送られてくる予定です。会員のみなさまも是非ご参加いただき、盛況なサミット・シンポジウムになるよう、ご協力をお願いいたします。